

新例会場

『つくし野コミュニティ・ホール』

当AAFCにとって最大の懸案であった根戸小学校の地域交流教室に代わる例会場につきま

については、すでに、皆様にはご連絡済みのため、大方の会員の方々はご承知のことと思



写真はコミュニティ・ホールの外観

会長

『オーディオと私』

私と音楽・オーディオのことなど気楽に書かせていただく。

一 学生時代

クラシック音楽に興味を持ち出したのは小学校高学年頃だろうと記憶する。

オーディオなるものに目覚めたのは大学生時代できつかけは実家の近所に高校と大学の先輩且つ大学の恩師が在任で足繁くお宅にお邪魔し音楽やオーディオのことなど語り合

二 社会人時代

社会人になり経済的に余裕が生じ初めて手に入れたのは長年憧れていた英国のesono社のDunlavyのスピーカーとブリュン

このコンビでは愛聴していた室内楽と声楽に殊の外、相性が良くかなりの年月愛用した。

然しある時、同好の士宅でスピーカーが違えば音がドラムチックに変わるのに関心が芽生えスピーカー遍歴が始まったのである。

因みに米国、香港での海外在勤時代に買集めたスピーカーはMcIntosh/XRT18, Tanoy/System215, Sonus Faber/Electa Amator/Guarneri Homage, Boston Acoustic/Acoustic Energy, Boseその他日本では未紹介の大小ブランド

ず徐々に整理し手放すことになった。この時期にスゴロ譲りたいとの広告をオーディオ雑誌に出しのが機縁で、AAFC創立メンバーのY氏と知り合う幸運を得て会の紹介を受け1996年末入会した。早いもので十四年が過ぎている。

三 自由人時代

社会人を卒業し全ての時間が自由になりオーディオ・音楽三昧の生活かと思いきや、他にも関心事が多く意外に多忙で時間の捻出に苦慮する昨今で、例会には欠席続きで心苦しく思っているが、この会を通じて多くの同好の士と知己を得て人生を豊かに送れることに大変感謝している。

2002年には会員のS氏のお誘いの好機で長年念願のザルツブルグ夏の音楽祭へ詣ることが出来た。さらに翌2003年は同氏と会員のI夫妻と共にミュンヘン・ザルツブルグ・ウィーンと音楽歴訪の旅をし忘れぬ思い出となった。

また2002年から毎年初夏にパリ在住の旧友を訪ね数週間滞在し数多くの音楽会に出掛け非日常的な環境で生演奏を観に行く音楽を満喫している。音楽で幸せを感じる時間は何物にも変えがたい喜びだ。

だが日本にはゆかない。この点近年のオーディオ・ヴィジュアル技術の進展により自宅で手軽に映像で音楽を鑑賞できるのはまさに有難い。オペラは当然のことながらコンサートでも演奏家の立ち振る舞い、演奏の情景を観ることで楽しみは何倍にもなり、またその演奏の全体像を理解するのに極めて重要なことだと思つた。

余談

海外駐在最後の地アメリカ、ジョージア州では単身だったので休日は暇さえあればオーディオ屋巡りを楽しんだ。アメリカ南部のオーディオ事情をすこし紹介しよう。アメリカはハイエンドオーディオ天国で日本では未知のブランドが大小存在しことに耳を楽しませてくれた。スピーカーに特に興味があり週末に時間があれば試聴に出掛けたが、日本では大型のオーディオショップに行けばほぼ全ブランドが聴けるが、当地では一軒のディーラーで扱うブランドは限定されているので、オーディオ雑誌

誌に記載の各ブランドのホームページにアクセスし州内のディーラーを探し地図を頼りに赴く苦勞があったが着けば報われた。郊外にあるディーラーの試聴室は広く、あるブランドは高級住宅街の大邸宅の完全装備された地下室で案内されたときあまりの豪華さに度肝を抜かれたこともあった。どのブランドのスピーカーも実に個性豊かで、それにオーナー、店員全てがオーディオ好き人間で、商売そっちのけでオーディオ談義に花を咲かし楽しい一時を過ごせる。ある小規模メーカーの新作スピーカーは殆ど手作りに近く月間二台ぐらいいしが生産出来ずディーラーに届くのが数ヶ月先といったブランドも有り試聴を待つのもこれ楽しと当地のライフスタイルに合わせた日々を過ごせた。うっかりしていると財布の紐が緩みまたまたスピーカーの買い替えて後からよく後悔した。今思い起こすと楽しいオーディオ行脚の日々だった。

付記：現行のオーディオシステムは二組 Sonus FaberのスピーカーAmator Homage(前方) Esotericのデジタルアンプで主に声楽や室内楽

アメリカ製のモニタースピーカー Dunlavy(後方)とMcIntoshのアンプで大編成のオーケストラ曲を聴いている。

今年には私にとり大切な一人の天才作曲家 ショパンとシューマンの生誕200年にあたるが二人の作品を中心にとくにシューマンを集中的に聴く計画を立てている。

一読多謝。An die Musik!

赤田 勝彦



写真は日本人の近影とリスニング・ルームそれにご愛用の機器類

